

広東省韶関市 南華禅寺

韶関市は三国時代の265年(甘露元年)、**呉**は関東省北部に始興郡とその下部行政区域として曲江県などの6県を設置し、郡治を曲江(現在の市街地)に設置した。南朝以降は州郡が設置されるようになり、韶関市は衡州の管轄となった。そして隋代の589年(開皇9年)に州北部の名勝・韶石山に因み**韶州**と改称され、それ以降の王朝で韶州の名称が継承されて行くこととなる。**明**清代には現在の韶関市に税関が設置されたことから、韶関という通称が発生している。韶関は広東省における重工業拠点とされ、1950年代から70年代にかけては国家重点工業地域として開発が進み、韶関鋼鉄廠、韶関冶煉廠、韶関挖掘機廠などの基幹産業企業が設立され、韶関発展の基礎を築いた。80年代以降の開発開放経済による更なる発展を見た韶関市は関東省北部の経済拠点を目標にした積極的な経済政策が実行されている。現在は鉱業、各種金属材料、建材を中心に、機械製造、石油化学鉱業を初め軽工業なども育成が行われ、電子情報技術と電気機械工業を一体化させ、また新素材の開発などのハイテク産業をも擁する総合的な工業都市と成長している。

丹霞山世界自然遺産 南華禅寺・雲門寺などの名所。

南華禅寺 広東省韶関市 南宗の発祥の地 千五百年の歴史がある。南華寺は6世紀の中国の南北朝時代、インドの名僧がここに来られて、風水のいいところと思って、お寺を建てた。

かつては宝林寺と言ったが、宋代に**南華禅寺**と改名された。677年に慧能がこの寺に入って南宗禅を確立したことから現在に至るまで栄えている。36年間宣教し、その間に43人の弟子を育てました。その慧能の門下にまた曹洞宗(そうとうしゅう)、臨済宗(りんさいしゅう)、沩仰宗、雲門宗、法眼宗という五つの流派ができました。

この寺には3体のミイラが残されている。この中に六祖慧能も含まれており、中国に現存する最古のミイラと言われている。

その体はミイラとして**南華禅寺**の六祖殿に安置されており、既に1300年近くを経過していることになる。3体とも共通しているのが、死後まもなく全身漆塗りとしたため、外見がほぼ生前の姿のまま残っている点。これは日本のミイラには見られない特徴である。

慧能のミイラは衣を着たまま全身に漆を塗ったようで、法衣毎固められており、その上から法衣を着せられている。六祖慧能の両側は南華寺もとの住職のミイラーが二体祭られています。左側のガラスケースの中に一枚の千仏袈裟(けさ)と水晶の鉢(はち)皇帝の詔書(しょうしょ)などが奉納されています。千仏袈裟と水晶の鉢は中国歴史上唯一、女帝の則天武后(そくてんぶこう)が六祖慧能に贈ったものです

南華禅寺の山門には、正面に、弥勒菩薩で裏には韋馱天で両サイドには、四天王で**剣(つるぎ)**、**琵琶**、**傘**と**蛇**です。その意味は「**風調雨順**」(ふうちょううじゅん)で、言い換えれば、必要な時に必要な量の雨と風だけが来るといことです。すなわち農業が基本の中国人の豊作のためのお守りです。

左にあるのは阿弥陀仏で、真中にあるのは如来で、右手にあるのは薬師仏です。

両側の壁に彫刻されているのは500羅漢様です。

六祖のミイラー、千仏袈裟と水晶の鉢は南華寺の宝物です。中国人の習慣と考えに合う禅宗の南の流派を開きました。

慧能は中国禅仏教の祖師として尊ばれていて、**日本のすべての禅も皆**、慧能の弟子から始まっている。曹洞宗の名は慧能の弟子の流れの洞山和尚(807~869)と曹山和尚(840~901)の名から来ているが、曹山は六祖慧能を慕って曹溪山から名を取っている。

六祖慧能(米つきの男)は、五祖弘忍(601~674)のもとで、米つき小屋でうすを引いたり、まきを割ったりの雑用生活をただけで、後継者として認められ、座禅修行に励む先輩エリートを尻目に、達磨以来の大事な衣鉢を受け継いで六祖となる。

禅宗の教えは、初祖の達磨より、二祖慧可、三祖僧燦、四祖道信、五祖弘忍そして慧能。

嵩山(すうざん)**少林寺**をはじめとする北の流派の「**北宗**」と**南華寺**を中心とした慧能様の「**南宗**」がある。**神秀**

は、南華寺を離れ北へ向かった。神秀は北宗の開祖である。



南華禪寺豪華な山号額



山門の奥深く天王寶殿続く



山門の両サイドには四天王



山門の両サイドには四天王



広い境内に天王寶殿



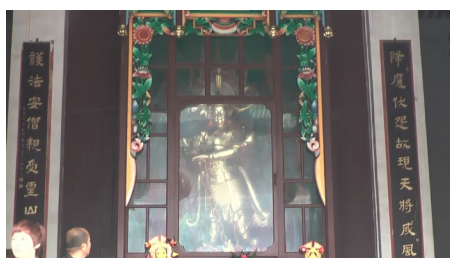
天王寶殿の山号額



天王寶殿正面には合いも変わらず布袋様



そして、山門の両サイドには四天王



布袋様の反対には韋駄天



大雄寶殿手前右サイドには鐘樓



大雄寶殿手前左サイドには鼓樓



池には不思議、金の亀戯れています



大きな大雄寶殿



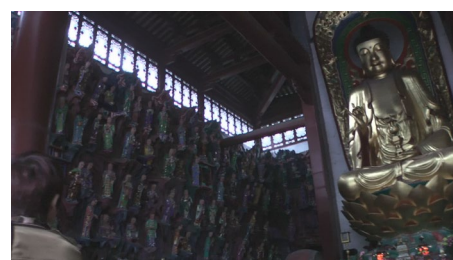
広い境内



大きな大雄寶殿の山号額



大雄寶殿内には釈迦三尊



釈迦三尊の両サイドには五百羅漢



慧能の即身仏ガラスケースに入っている 大雄寶殿の裏には藏經閣 藏經閣の中には竹にかかれた般若心經



雲版



立派な魚槓